

まちの未来を守る

「独自のルールづくり」

「1つの区切り」を迎えた安平町は、次のステージに向けた歩みを進めます。

大栄環境グループは、環境保全やリサイクル、再生可能エネルギー分野などにおいて幅広い知見を有する企業です。今後は反目する関係ではなく、町の課題解決（ゼロカーボンの推進など）に向け、地域の価値を共に高める「連携・協働」の可能性を探ります。

さらに、全国で問題となっている無秩序な開発を防ぐため、町として「作ってはいけない場所（抑制地域）」と「促進する場所」を明確にする「ゾーニング」の考え方や良好な景観を守るための他自治体の事例なども参考にしながら、このまちに適した独自のルールづくりを幅広く研究し、検討を進めていきます。

そして、町民の皆様と共に考え、ルールを定めることで、豊かな自然と景観を未来の子どもたちへ引き継ぐための仕組みづくりを目指していきます。



会場からの声

「仲間とハイタッチして喜びたい」

町長から「1つの区切り」という言葉を聞けて、今ここで仲間と抱き合って喜びたいくらい嬉しいです。手探りから始まった活動でしたが、役場の方々の協力や専門家の先生方との出会いがあり、私たちだけでは絶対にここまで来られませんでした。本当に感謝でいっぱいです。

「あびらの自然を守る会」 会長 山下さん



「本当の意味でのパートナーシップを」

地域住民、事業者、行政の三者が、偽りのない情報を共有、対話することが、本当の意味でのパートナーシップにつながります。今回の安平町のケースは、その素晴らしい第一歩です。

「元・安平町環境保全アドバイザー」 藤原さん



「まさか町の条例で覆せるとは」

道から許可が下りていたもので、もう建設されるものだと思われていました。しかし町が「普通河川の管理条例」を根拠として不許可とし、決定を覆すほどの力を発揮したことに本当に驚いています。

「これからは住民の関心をもっと必要」

他の地域では「(計画を) 知らなかった」という間に話が進んでしまう例もあります。今回の結果に安心するだけでなく、これからも私たち住民が町の環境に関心を高めていくことが大切だと思います。

参加者

結びに

フォーラム会場では、上記以外にも、これまでの活動を振り返る声やこれからのまちづくりに対する期待など、さまざまな意見や感想が交わされました。

今回の成果は、町民の皆様一人ひとりが「自分たちのまちをどう守りたいか」を考え、声を上げてこられた結果です。

安平町はこれからも、こうした皆様の多様な声や「対話」を大切にしながら、豊かな自然と共生する新たなまちづくりを進めていきます。

問合せ

税務住民課
生活環境グループ
☎ 22940